資料3

2. 浦和美園駅周辺、岩槻駅周辺、中間駅周辺、延伸線全体のまちづくりについて

内　容

①浦和美園駅周辺地区のまちづくりについて

②岩槻駅周辺地区のまちづくりについて

【参考１】岩槻まちづくりアクションプラン（第２期）について（素案）

【参考２】七里駅周辺のまちづくりについて

③中間駅周辺地区、延伸線全体のまちづくりについて

④中間駅周辺地区のまちづくり選定案について

【参考３】中間駅周辺地区のまちづくり検討経緯について

【参考４】中間駅周辺地区のまちづくりケーススタディについて

①浦和美園駅周辺地区のまちづくりについて

◎まちづくりの方向性：スポーツ、健康、環境・エネルギーをテーマに新しいまちの創造

■実戦方策と主な計画

地域の情報発信

◎ウェブサイトによる浦和美園～岩槻地域の情報発信

ホームページ

◎スマホアプリ「美園子育てスタイルBambi」での情報発信

・若い子育て世代をターゲットに「まちのお医者さん」、「子育て世帯向けイベント」などの情報を配信（美園タウンマネジメント協会実施）

まちの基盤整備

◎土地区画整理事業の推進

・4地区の土地区画整理事業を推進し、良好な市街地整備を行う

・浦和東部第一地区内の駅前保留地等の活用について地権者等と検討（浦和東部第一地区は平成32年までに概成）

◎小中学校の整備

・小学校、中学校が平成31年度開校予定

◎スマートホーム・コミュニティの普及

・平成31年度までに美園スマートホーム・コミュニティモデル街区に一戸建てが整備予定（平成30年度約40戸、平成31年度約50戸）

スマートホーム・コミュニティ（H28年度33戸完成）

地域資源を活用した交流

◎浦和美園まつり＆花火大会

◎日光御成道 美園 大門宿まつり

◎埼玉スタジアム２００２公園でのキッチンカーグルメ選手権

地域内外の移動確保

◎次世代（電動）バスの開発・実証事業

・東京2020大会に向け、サッカー会場となる「埼玉スタジアム２００２」とバスケット会場「さいたまスーパーアリーナ」を繋ぐ低炭素な拠点間輸送システム

・東京2020大会レガシー創出を目指す

◎マルチモビリティシェア　全市へ波及

超小型モビリティ

シェアリングサイクル

関連する主な計画

○さいたま市総合振興計画/次期実施計画（素案）

・副都心の都市機能の向上、まちのブランド差別化を図るために、「公民+学」による総合生活支援サービスの提供等を進め、「美しい園」にふさわしい都市環境を形成することを明記（平成30年度策定予定）

○みその都市デザイン方針

・個性と魅力が感じられる都市空間・都市環境の形成を進めるための地区共通の指針として、本地区が目指すべき都市デザインの方向性を明記（平成29年4月策定）

持続可能なまちづくりに向けた検討

◎地下鉄7号線延伸線沿線エリアにおけるまちづくり方策の検討

◎企業ヒアリング、アンケート等の実施

地下鉄7号線延伸実現に向けた検討

◎地下鉄7号線延伸に向けた調査・検討

◎地下鉄7号線延伸に向けたまちづくり需要調査など

地域が連携・協働したまちづくり

◎河川、河川調節池の活用

・綾瀬川の歩行環境整備

綾瀬川将来イメージ
左：（出典）みその都市デザイン方針
右：（出典）綾瀬川デザインワークショップ

・河川調節池の底面利用

河川調節池の底面利用イメージ
（出典）綾瀬川デザインワークショップ

◎スタジアム参道の歩行空間の確保、景観誘導

スタジアム参道の将来イメージ
（出典）みその都市デザイン方針

■これまでのまちづくりの成果

主なハード事業

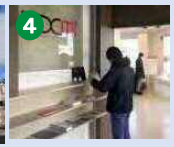
◎戸建住宅、大型マンション整備

91戸の戸建住宅（H29,6完成）

317戸のマンション（H30,4完成予定）

◎公共施設整備

複合公共施設（コミュニティセンター、図書館、支所等（H28,1完成）



UDCMi（H27,10完成）

◎生活必要施設の整備

商業施設（H29.3開業）

銀 行（ H29.11完成）

認可保育所（地区内に6箇所開設）

民間・市民団体等の取組

浦和美園まつり＆花火大会（10月）

みそのいち

都市デザイン

②岩槻駅周辺地区のまちづくりについて

◎まちづくりの方向性：城下町や人形のまちとしての歴史・文化が息づく、ふれあい・おもてなしのまちの創出

■実戦方策と主な計画

地域の情報発信

◎モニターツアーの実施
- 岩槻のまちを体験し、魅力を感じてもらうため、モニターツアーの実施

◎新たな観光情報誌の作成
- ターゲット（女性や外国人等）に合わせた観光情報誌等の作成

ターゲットイメージ

まちの基盤整備

◎土地区画整理事業の推進
- 岩槻駅西口土地区画整理事業を推進中（2028年事業完了予定）

◎新たな施設等の整備
- （仮称）岩槻人形博物館、（仮称）にぎわい交流館いわつき（2020.2開館予定）等の整備

岩槻歴史街道の整備

（仮称）岩槻人形博物館

観光案内サインの整備

地域資源を活用した交流

◎歴史・文化的資源を活用したイベントの実施
- 長谷川家見世蔵（国登録有形文化財）等を活用し、論語教室、歴史散策事業等を実施

長谷川家見世蔵

地域内外の移動確保

◎乗合タクシー、コミュニティバスの拡充検討

◎シェアサイクル等の拡充検討
- 民間企業によるシェアサイクルの実施（岩槻区で2箇所）

シェアサイクルイメージ
（セブンイレブンニュースリリースより）

関連する主な計画

○さいたま市総合振興計画/次期実施計画（素案）
- 副都心としての岩槻地区の都市機能の強化を行うことを明記。（平成30年度から都市機能の強化に向けた取組の推進）

○岩槻まちづくりマスタープラン（平成24年11月策定）
- 「城下町の歴史・文化が息づくふれあいのまち」を地域が目指す姿とし、岩槻駅周辺地区の今後のまちづくりの目標、取り組みの方向性を示している。

○岩槻まちづくりアクションプラン（平成30年度改定予定）
- 豊かな歴史・文化資源を生かした都市型観光に軸足を置いたまちづくりを推進する視点から、観光機能強化を推進している。
- 今年度、第2期プランへ改定中。（「観光案内サイン等の整備」など7事業を新規に追加予定。）

持続可能なまちづくりに向けた検討

◎まちの融合
- 駅舎完成により駅の東西 が結ばれ、新旧の街並みや地域コミュニティの融合を図る

◎地下鉄7号線延伸線沿線エリアにおけるまちづくり方策の検討

◎土地活用の検討
- 岩槻駅西口土地区画整理地内の土地所有者を対象とした土地活用セミナーを実施

土地活用イメージ

（平成25年撮影、一部イメージ図）

地下鉄7号線延伸実現に向けた検討

◎地下鉄7号線延伸に向けた調査・検討

地域が連携・協働したまちづくり

◎地域の連携
- 商店会、人形組合、まちづくりNPO法人等が連携しまちづくりを実施

◎住民主体のイベントの創出
- 五節句（人日(1月)上巳(3月)端午(5月)七夕(7月)重陽(9月)に合わせたイベントを創出

端午の節句
（こいのぼりくぐり）

愛宕神社大ひな壇飾り
（H29.2～3開催）

■これまでのまちづくりの成果

主なハード事業

4

岩槻駅舎
（H29.3完成）

岩槻駅西口駅前広場
（H29.3完成）

観光案内所
（H29.4オープン）

歴史・文化資源やイベントの実施

国登録有形文化財

5

大正館

6

岩槻郷土資料館

地域資源

7

時の鐘

8

岩槻城址公園

イベント

岩槻鷹狩り行列

まちかど雛めぐり

岩槻まちづくりアクションプラン（第２期）について（素案）

参考１

１　岩槻まちづくりマスタープラン（平成24年11月策定　目標年次：平成32年度）

岩槻まちづくりマスタープランでは、岩槻駅周辺地区に数多く点在する歴史的資源と、人形づくりをはじめとする歴史に培われた文化的資源を有効に活用し、人々が何度も訪れたくなる、いつまでも住み続けたくなる魅力あるまちづくりを進め、賑わいを創出するようまちづくりのコンセプトを「歴史・文化」に設定しました。

まちづくりのコンセプト ⇒ 「歴史・文化」
地域が目指す姿 ⇒「城下町の歴史・文化が息づくふれあいのまち」

「歴史・文化」に基づくまちづくり方針を以下のとおり設定し、歴史的・文化的な地域資源を観光面で活用するとともに、人々が集い、ふれあいを大切にするまちを目指します。

３つのまちづくり方針
① 歴史・文化資源を保全し、まちの魅力向上を図ります。
② 歴史・文化資源を活用し、都市型観光のまちづくりを進めます。
③ 歴史・文化資源の連携により、にぎわいの創出に努めます。

豊かな歴史・文化資源を生かした都市型観光に軸足を置いたまちづくりを推進する視点から、観光機能を強化する取組を進めます。

取組の方向性（５つの観光機能の強化）

来る	・・・	交通機能
知る	・・・	情報発信機能
巡る	・・・	回遊機能
楽しむ	・・・	体験・交流機能
休む	・・・	観光支援機能

２　岩槻まちづくりアクションプラン（計画期間：平成26～32年度）

■岩槻まちづくりアクションプランについて

岩槻まちづくりマスタープランの３つの方針に基づいたまちづくりを実現させるため、個別事業の組み合わせによって実効性を高め、地域からの積極的な参加を促し、まちづくりをけん引する行動計画であり、効果的なまちづくりの実現を目指します。

本アクションプランでは、歴史・文化をテーマとする岩槻のまちなか観光を推進し、地域資源が集積する範囲に施設やイベントを充実させるとともに、地域資源を結ぶ回遊ルートを設定し、街並みの雰囲気を感じ・学び、イベントや伝統工芸を体験できるよう、事業をまちなかに集中させてコンパクトなまちづくりを目指します。

■施策テーマと体系

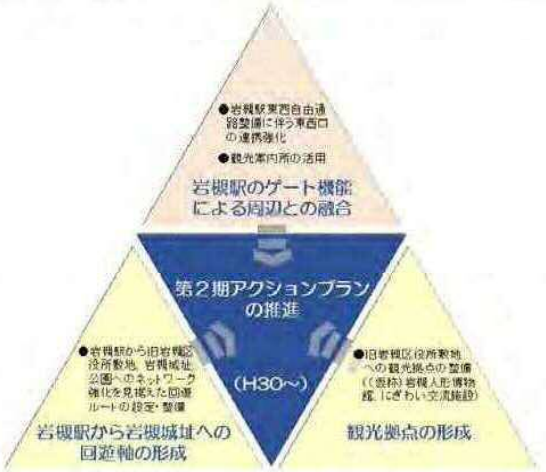
第２期では新たに５つの施策テーマを設定し、アクションプランに位置付けた３２の事業を推進します。

□地域資源を生かしたまちづくり
□伝統産業を生かしたまちづくり
□にぎわいのある観光ルートを目指したまちづくり
□交流人口の増加を目指したまちづくり
□浦和美園～岩槻間の交通機能強化によるまちづくり

番号	事業名	所管課	区分
1	（仮称）岩槻人形博物館整備事業	文化振興課岩槻人形博物館開設準備室	継続
2	時の鐘等整備	文化財保護課	継続
3	景観まちづくり考発事業	都市計画課	継続
4	岩槻藩遺毒館収存活用	博物館	継続
5	岩槻郷土資料館収存活用	博物館	継続
6	登録有形文化財の活用	岩槻区総務課観光経済室 岩槻区コミュニティ課	新規
7	人形のまち岩槻流しびな	【商業振興課】	継続
8	さいたま市伝統産業活性化事業	商業振興課	継続
9	人形づくり体験	岩槻区総務課観光経済室	継続
10	人形のまち岩槻まちかど雛めぐり	【岩槻区コミュニティ課】	継続
11	岩槻中央通り線整備事業	道路環境課 道路計画課	継続
12	岩槻歴史街道事業	岩槻まちづくり事務所	継続
13	半日観光ルート事業 （人形のまち・城下町岩槻ルート）	観光国際課	継続
14	城下町岩槻歴史散策	岩槻区総務課観光経済室	継続
15	岩槻区の観光PR	岩槻区総務課観光経済室	継続
16	岩槻散策マップ	岩槻区総務課観光経済室	継続
17	岩槻区ガイドブック作成	岩槻区コミュニティ課	新規
18	岩槻観光案内所運営事業	観光国際課	新規
19	自転車を活用した観光の推進	自転車まちづくり推進課 岩槻区総務課観光経済室	新規
20	観光案内サイン等の整備	岩槻区総務課観光経済室 岩槻まちづくり事務所	新規
21	にぎわい交流施設整備事業	経済政策課	新規
22	いわつき農産物グルメスタンプラリー	【農業政策課】	継続
23	他区との連携によるにぎわい事業	岩槻区コミュニティ課	継続
24	ロビーコンサート	岩槻区コミュニティ課	継続
25	まつりによるにぎわいの創出	【岩槻区総務課観光経済室】	継続
26	岩槻駅周辺地域活力創出事業	東部地域・鉄道戦略部	新規
27	自転車ネットワークの整備推進	自転車まちづくり推進課 道路環境課	継続
28	バリアフリー基本構想進行管理	交通政策課	継続
29	バス対策事業	交通政策課	継続
30	快速バスの運行	東部地域・鉄道戦略部	継続
31	地下鉄7号線延伸事業	東部地域・鉄道戦略部	継続
32	岩槻駅西口土地区画整理事業	岩槻まちづくり事務所	継続

※所管課欄に【 】の記載がある事業は、事業の主体が他団体等である事業

■事業展開の進め方



アクションプラン（第２期）では、第１期からの継続事業や第２期からの新規事業とも連携を図りながら、岩槻駅周辺地区の３つの大きな事業展開をさらに進め、地域資源を回遊ルートでネットワークさせ、沿道や一帯のまちなみ環境整備を関連づけるとともに、まちづくりを進めます。

■第１期アクションプラン終了事業（３１事業のうち６事業）

- 岩槻駅舎改修事業
- 岩槻駅観光案内所の設置
- コミュニティサイクルの導入検討
- （仮称）岩槻駅西口自転車駐車場整備
- 旧岩槻区役所庁舎解体
- 旧岩槻区役所敷地利用計画

■第２期アクションプラン（平成３０～３２年度）

継続事業２５事業、新規事業７事業

七里駅周辺のまちづくりについて

参考2

1. 七里駅舎の改修

＜現状＞

・南口改札口を有する地上平面駅で、駅周辺では七里駅北側特定土地区画整理事業及び風渡野南特定土地区画整理事業が施行されている。

・平成27年度の七里駅の1日平均乗降人員は20,711人で、市内の東武鉄道各駅の中では大宮駅、岩槻駅に次いで乗降人員の多い駅となっている。

＜課題＞

・七里駅の改札口は南口のみで、線路北側からの駅利用者は、駅から250m以上離れた踏切を渡らなければならず、**駅へのアクセス性が低い**。

・駅南口に集積している商業・金融施設は線路により隔てられているため、駅北側からのアクセス性が低く、**市街地が分断されている**。

【七里駅橋上化駅舎・自由通路整備のねらい】

① **交通結節点としての機能強化**
鉄道からバス・タクシーなど二次交通への乗り換えを容易にさせ、交通結節点としての機能強化を図る。

② **七里駅南北の一体化と活性化**
自由通路により歩行者の自由な往来を可能にさせ、既存の南口周辺の商業・金融施設や将来的な北側の商業施設等を一体的に活性化させる。

③ **アクセス性の高い公共交通体系**
土地区画整理事業地区を含む駅北側から七里駅へのアクセス性を向上させる。

【事業スケジュール】

	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	H34年度	H35年度
事業方針の決定	2月定例会まちづくり委員会で事業報告 →							七里改良駅舎供用開始
橋上化駅舎・自由通路の設計		基本設計 →	実施設計 →					
橋上化駅舎・自由通路の工事				工事期間 →				

2. 駅周辺の基盤整備事業（土地区画整理事業）の状況

●駅周辺では駅北側と駅南東部で、それぞれ七里駅北側特定土地区画整理事業及び風渡野南特定土地区画整理事業が施行されており、事業地区内では今後の発展により地区内人口の増加が見込まれている。

●七里駅北側特定地区では駅前広場や主要な駅アクセス道路などのインフラ整備を実施していることもあり、駅北口開設に対する関心が高く、平成18年には土地区画整理組合理事長から七里駅北口開設の要望を受けている。

●土地区画整理組合では駅前広場や駅アクセス道路となる都市計画道路を優先整備対象としており、平成26年度から駅アクセス道路の整備に着手しており、駅前広場整備は平成29年度から着手する予定になっている。駅舎改良事業は駅周辺の基盤整備事業の進捗に合わせて取り組む必要があり駅舎改良への早急な対応が求められている。

(1)さいたま都市計画事業七里駅北側特定土地区画整理事業

■位置図

■設計図

■事業概要

地区名	面積（ha）	施行期間（年度）	駅前広場	地区内計画人口（人）	地区内人口（認可時人）
七里駅北側特定地区	32.0	H14～H49	北口	3,000	約2,000

(2)さいたま都市計画事業風渡野南特定土地区画整理事業

■位置図

■設計図

地区名	面積（ha）	施行期間（年度）	駅前広場	地区内計画人口（人）	地区内人口（認可時人）
風渡野南特定地区	13.7	H5～H30	-	1,100	約360

③中間駅周辺地区、延伸線全体のまちづくりについて

◎まちづくりの方向性：自然と共生し、地域資源を活用したまちの創造

■実戦方策

地域の情報発信

◎ウェブサイトによる浦和美園～岩槻地域の情報発信

ホームページ

◎観光マップ（美園～見沼田んぼ）の発行（埼玉高速鉄道）

◎見沼田んぼを題材とした写真コンクールの開催

作品募集チラシ

まちの基盤整備

◎鉄道建設時に合わせて開発

・中間駅周辺のまちづくり選定案（3-6）参照

地域資源を活用した交流

◎自然環境や農業等を活用したイベントの実施

さいたマーチ
見沼ツーデーウォーク

いわつきマルシェ in 目白大学

クリーンウォーク募集チラシ

みぬま秋フェス in さぎ山

地域内外の移動確保

◎快速バスの運行

快速バス
（岩槻駅⇔目白大学⇔浦和美園駅）

持続可能なまちづくりに向けた検討

◎今後の社会情勢等を注視し、段階的なまちづくりについて調査・検討

地下鉄7号線延伸実現に向けた検討

◎地下鉄7号線延伸に向けた調査・検討

地域が連携・協働したまちづくり

◎市民組織との連携

・さいたま市地下鉄7号線延伸事業化推進期成会と連携し、延伸線全体のまちづくりを推進する

◎目白大学との連携

・目白大学とさいたま市が包括連携協定を締結（平成28年10月）

目白大学
ホームページより

■主な地域資源

国指定 重要無形民俗文化財
岩槻の古式土俵入り

国指定史跡　真福寺貝塚

見沼田んぼ

桜回廊

目白大学

目白大学クリニック

④中間駅周辺地区のまちづくり選定案について

■ 地下鉄７号線延伸線のまちづくり

延伸計画（浦和美園～岩槻間：約７．２km） → 鉄道空白地帯が存在 → 中間駅設置・まちづくりの必要性 → 開発需要調査（定着人口約4,000人） ＋ α 産業集積拠点の検討

■ 駅周辺の検討テーマ

浦和美園駅周辺	スタジアム(仮称)駅周辺	中間駅周辺	岩槻駅周辺（既成市街地＋既設駅との連結）
<ニュータウンの建設促進> 副都心の形成	スポーツ基地づくり	地域資源の有効活用	<歴史市街地の再生> 副都心の形成

■ まちづくり案の絞込み

まちづくりの将来像・基本方針の検討 → 「コンセプト３案（A・B・C）× 開発パターン３案（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）」９案を作成し検討。 → 下記の「コンセプト３案（A・B・ABC統合）×開発パターン２案（Ⅱ・Ⅲ）」６案に絞る。

■ コンセプト

【キーワード】 A案：エコ　B案：長寿・健康　ABC案：エコ、長寿・健康、自然

A案：環境にやさしい新しいまちづくり

「街じゅうがエコ　太陽を活かす未来都市」
E-KIZUNA Project 導入

エコ産業が集積したまちづくり
エコ・環境・エネルギー産業の誘致
研究開発ビジネス

環境にやさしい新しいまちづくり
自動車に頼らない「歩いて暮らせるまち」
自然エネルギーを利用した住宅地
緑多い菜園付住宅

【考え方】
・省エネルギーや二酸化炭素の排出削減という、グローバルなニーズにこたえるエコをテーマとするまちづくり。
・E-KIZUNA Projectも導入し、さいたま市らしさを打ち出す。

B案：長寿社会に対応したまちづくり

「長生きをサポートする　健康先進都市」
スマートウエルネスシティの理念

健康・医療・福祉施設が集積したまちづくり
健康・医療・福祉系産業の誘致
医療モール
スポーツビジネス

長寿社会に対応したまちづくり
ユニバーサル住宅
緑多い菜園付住宅
ヘルシーロード、健康スポーツ公園

【考え方】
・これからの超高齢社会の中で、長寿と健康を支えるため、ハード・ソフト両面から施策を展開するまちづくり。
・スマートウエルネスシティの理念も取り入れる。

ABC統合案

「健康と自然を育む木漏れ日の街」
E-KIZUNA Project 導入
スマートウエルネスシティの理念

環境にやさしい新しいまちづくり
エコ・健康・医療・福祉系産業の誘致
研究開発ビジネス、医療モール、スポーツビジネス

長寿社会に対応したまちづくり
緑多い菜園付住宅、ユニバーサル住宅
ヘルシーロード、健康スポーツ公園

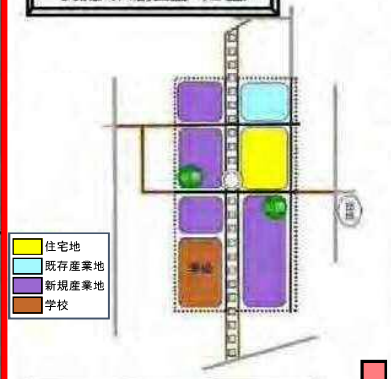
自然環境と共生したまちづくり
緑豊かな住宅地、自然を活かした散策路

【考え方】
・これからの社会にとって、いずれも必要なエコ・健康・自然全てのコンセプトを取り入れ、10年・20年という長い目で柔軟に地域を育てていくまちづくり。

■ 開発パターン

・交流人口創出型（Ⅱ型）：産業系中心のまちづくり
・定着・交流バランス型（Ⅲ型）：定着人口約4,000人の住宅系と産業系の複合型のまちづくり

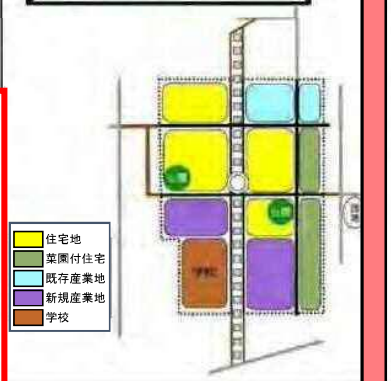
交流人口創出型（Ⅱ型）



基本構成
- ●開発規模　約45ha
- ●定着人口　約500人
- ●交流人口　約3，000人（産業など）
- ●鉄道利用者推計
  約600～1，200人（生産・事務所・研究施設等）
- ●概算事業費　約250億円（地区外整備約80億円含む）

【 Ⅱ型とⅢ型の比較 】
1　開発規模が小さい
2　事業期間が短い
3　事業費が安い
4　鉄道利用者数は立地の産業系業種により左右される

定着・交流バランス型（Ⅲ型）



基本構成
- ●開発規模　約65ha
- ●定着人口　約4，000人
- ●交流人口　約1，500人（産業など）
- ●鉄道利用者推計
  約1，200人（住宅・事務所・研究施設等）
- ●概算事業費　約330億円（地区外整備約70億円含む）

【 Ⅱ型とⅢ型の比較 】
1　開発規模が大きい
2　事業期間が長い
3　事業費が高い
4　鉄道利用者数は住宅系＋産業系であり一定数が見込める

1．コンセプトについて

【選定案】 ABC統合案「健康と自然を育む木漏れ日の街」

【考え方】 今後の社会情勢等の変化に柔軟に対応できるまちづくりを目指す

中間駅周辺地区は、市街化調整区域であるため直ちに開発することは難しく、鉄道建設時に合わせてまちづくりを行う。そのため、今後の社会情勢等の変化に柔軟に対応し、中間駅周辺地区に求められる機能を誘導できるよう、幅を持ったコンセプトとする。

2．開発パターンについて

【選定案】 交流人口創出型（Ⅱ型）

【考え方】 人口減少社会に対応した持続可能なまちづくりを目指す

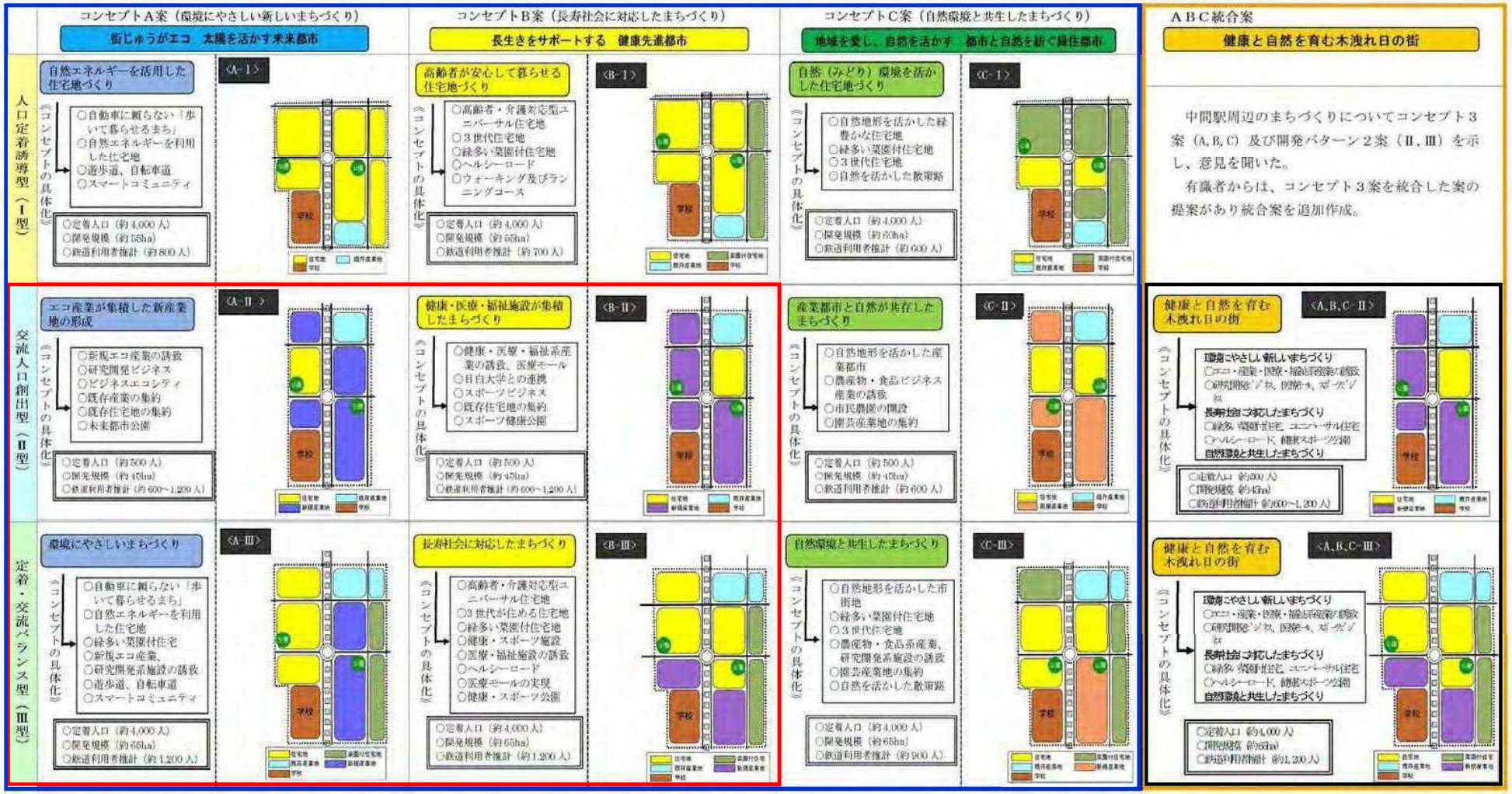
将来的に人口減少を迎える中で新たな定着人口を創出することは難しい状況にある。そのため、企業誘致等により交流人口（就業人口等）を創出するまちづくりを展開する。

選定案

コンセプト
【ABC統合案】
開発パターン
【交流人口創出型（Ⅱ型）】

中間駅周辺地区のまちづくり検討経緯について

参考3



中間駅周辺地区まちづくり方針の絞り込みの経緯

平成21年度

開発需要調査を行い、定着人口約4，000人と推計

平成22年度

コンセプト3案（A、B、C）と開発パターン3案（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ型）の9つのまちづくり案の作成（青枠）

平成23年度

■9つのまちづくり案を、

①開発コスト（開発に要する費用）
②鉄道利用者増に寄与（鉄道利用者の見込み）
③まちづくりの波及効果（雇用創出や税収等の見込み）
④オリジナリティ
⑤地域特性

などのキーワードから評価し、絞り込む

・上記のキーワードにより評価の高かったコンセプト2案（A、B案）と開発パターン2案（Ⅱ、Ⅲ型）の4つのまちづくりに絞り込み（赤枠）

「【環境・長寿社会・共生】というキーワードは全てなくてはならない」という、有識者からの意見で、コンセプト3案（A、B、C）の統合した案の提案があり、統合案の作成（オレンジ枠）

・コンセプト3案（A、B、ABC統合案）× 開発パターン2案（Ⅱ、Ⅲ型）の6つのまちづくりに絞り込み（赤枠）と（黒枠）

中間駅周辺地区のまちづくりケーススタディについて

注）沿線の各大学と協議し作成した案ではない　参考4

中間駅周辺地区のまちづくり（例）

【健幸・医療・福祉系産業の集積を実現する】

※ 健幸：一人ひとりが健康で生きがいを持ち、安心安全で豊かな生活を営むこと。
（スマートウェルネスさいたまより）

東部地域の地域特性

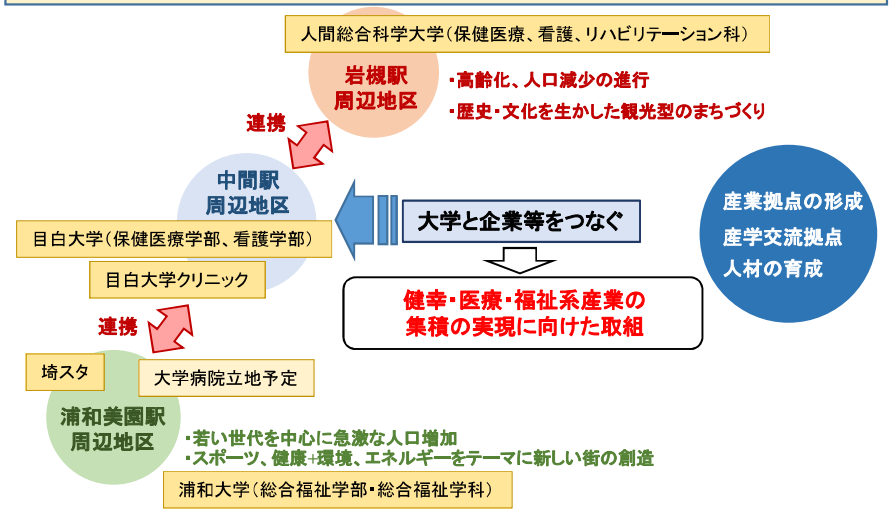
●急激な人口増加と、人口減少、高齢化の進行
- 浦和美園駅周辺地区は若い世代の定住が急速に進んでいる。一方、岩槻駅周辺地区は高齢化、人口減少が進行している。

●異なる特性を持った2つの副都心
- 浦和美園駅周辺地区は「スポーツ、健康+環境、エネルギー」をテーマに新しい街を創造しており、岩槻駅周辺地区は歴史・文化を生かした観光型まちづくりを推進している。

●医療施設、医療系大学が点在
- 浦和美園駅周辺地区⇒大学附属病院が立地予定（周辺には浦和大学も立地）
- 岩槻駅周辺地区⇒人間総合科学大学岩槻キャンパスが立地
- 中間駅周辺地区⇒目白大学と目白大学クリニックが立地

中間駅周辺地区に求められるまちづくり

●点在している医療施設、医療系大学を連携させ、新たな産業拠点を生み出す
●企業・大学等が交流する拠点を形成する
●持続的な成長・発展に向けた人材を育成する



沿線大学と商工会議所との包括連携協定

沿線地域3大学（浦和大学・人間総合科学大学・目白大学）と市内ものづくり企業の産学連携事業を積極的に行い、高齢化社会における介護・福祉機器を新たに開発することにより、さいたま市東部地域内への企業誘致や新たな産業集積を図る。

1）浦和大学 「SUQOL（スコール）事業」
介護現場のニーズを集約し、その課題解決により市民のQOL向上を目指して市内ものづくり企業や学生と連携をしながら、ロボット技術等による機器開発や、新たな仕組みづくりに取り組む。

2）人間総合科学大学「SHIP（シップ）事業」
義肢装具のニーズを集約しその課題解決に向け、市内ものづくり企業や学生と連携しながら新たな機器開発に取り組む。

3）目白大学「SMAP（スマップ）事業」
看護支援を中心とした医療機器等の開発プロジェクト。目白大学の認定看護師教育課程の学生による医療機器等の開発コンテストを実施し、市内ものづくり企業や学生と連携しながら新たな機器開発に取り組む。

■地域の連携事例 『はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点』（静岡県浜松市）

浜松医科大学を中心に、ものづくり地域「浜松」の特徴を活かした技術力、産業開発力と、医学シーズ・医療ニーズとの融合を促進することにより、新技術の事業化を推進する体制を構築し、健康・医療関連産業の基幹産業化を通じて、地域の活性化を目指している。

・産学官連携図

（出典）浜松医科大学ホームページ

・実用化した事例
「手術用ナビゲーションシステム」

【参画機関】
- 浜松医科大学
- 株式会社アメリオ（浜松市／3次元形状処理・通信制御ソフト技術）
- パルステック工業株式会社（浜松市／3Dスキャナ製造技術）
- 株式会社ゾディアック（浜松市／3D形状生成技術）
- 株式会社エヌエスティー（浜松市／制御機器製造・コントローラ技術）
- 永島医科器械株式会社（東京都／医療機器製造販売）
- （財）浜松地域テクノポリス推進機構（浜松市／支援機関）
- JSTイノベーションサテライト静岡（浜松市／支援機関）

■産業集積の事例 『長浜サイエンスパーク』（滋賀県長浜市）

「新規バイオ産業等拠点の形成」「産学交流拠点の形成」「人材の育成」「自律した産業拠点の形成」という4つの柱をコンセプトに、平成14年に長浜サイエンスパークを整備。バイオテクノロジー関連産業の集積をはかるとともに、ベンチャー企業などのバイオ産業創出システムの構築を図り、研究開発から生産まで行える新規バイオ産業拠点の形成を目指している。

所在地	滋賀県長浜市
地理的条件	名神高速道路米原IC.から約7km 、JR北陸本線田村駅に隣接
開発規模	全体面積：12.5ha 、産業用地面積：4.6ha
開発事業者	長浜市土地開発公社
立地企業数	6社（分譲3社、賃貸3社）（**全区画に企業進出**）
中核施設	長浜バイオ大学

研究機関名、企業・事業所名	事業内容
イオンディライトアカデミー㈱	設備管理の研修
マリンフード㈱	健康食品の研究開発・製造
山岡ヤマゼン㈱　本社	物流資材の洗浄・再生
星野科学㈱　長浜工場	食品素材の研究開発・製造
マルホ㈱	医薬品の研究開発・製造
ピアス㈱	医薬品、化粧品等の製造